

イチゴがり

あったか学級の子どもたちは、イチゴを育てています。実がいっぱいつくように、苗の間の草取りをしたり水やりをしたりして大切に育ててきました。畑でのイチゴの生長の様子は写真に撮っておき、教室で生長の順に写真を並べ換えたりして、つぼみが大きくなり花が咲き、実がなっていく様子を振り返ったりしてきました。

その甲斐あって、今年はイチゴが豊作です。赤く色づいたおいしそうなイチゴの実が、たくさんつきました。

5月25日に、近くの社中学校の子どもたちを招いて、一緒にイチゴ狩りをしました。来てくれた社中学校の子どもたちは、みんな社北小学校の卒業生です。「久しぶり」などと、あったか学級の子どもたちに声をかけていました。今日来てくれた中学1年生は、去年の秋、イチゴの株を植え替えしていました。卒業した後も、イチゴが取れるのを楽しみにしていました。

大きな実や小さな実と大きさは様々ですが、色づいたイチゴをみんなで収穫しました。

卒業したお兄さんやお姉さん達が来てくれて、子どもたちはとても意欲が湧いてきたようです。イチゴの株を一緒にのぞき込みながら、葉っぱに隠れているイチゴがないか仲良く探しながら、収穫する喜びを味わいました。

あったか学級では、収穫したイチゴを使った調理も行いました。子どもたちがアイディアを出し合い、「いちごもち」「いちごアイス」「いちごドーナツ」を作ることになりました。

新型コロナウイルス対策のため調理室は使えなかったもので、机の上で個別にできることなどの制約の中、いちごのおいしさを活かしたデザートが出来上がりました。

詳しくは、本校の「あったか学級」のページをご覧ください。

